

スズガモ



2008年度の当協会の忘年会は登別のカルルス温泉でした。12月10日でしたが札幌の初雪はすっかり消えていたし、現地までの道筋も雪はありませんでした。僅かに樽前山がかすかに雪化粧をしている程度でした。途中往路復路ともに苫小牧の漁港市場に昼食のために立ち寄りました。往路は見るだけ、復路は買い物となりました。復路はバスを海側に止めてくれましたので降車してすぐ海面を覗きにゆきました。カモメに混じって小型のカモが数羽水面に憩っていました。またキンクロハジロだろうと思いましたが、念のために撮影しました。距離がありましたので、ズームで引き付けての撮影でさらに帰宅してから画像処理で拡大しての映像ですが、その限りの判断でスズガモと判定しました。嘴の根本に白をあしらっているのが決め手です。

スズガモは潜水採餌をします。潜る深さはさほどでもないようです。貝類を丸呑みにして胃袋の中で砕くといわれています。装いは渋い汚褐色で地味であります。接近しなければキンクロハジロとの区別が出来にくいように感じました。周りに漁船がびっしり係留してある苫小牧漁港の中で憩っているくらいですから道南の海岸部では普通に見られるだろうと思いました。

忘年会もこの会で7度目となりました。定山溪温泉2回、洞爺湖1回、積丹1回、登別温泉1回、南幌温泉1回そして今回となります。参加者の顔ぶれは少しは変わりますが、元気高齢者ばかりなので消費するアルコールの量はいつもながら宿の女中達があきれ程であることに変わりはありません。個人的

には古稀を過ぎた身であれば残り何回お付き合い出来るかを考えてしまいますが、この時ばかりは「痛風」も「糖尿病」も怖さを忘れて過ごすことにしていますが、醒めて思えばびくびくものであります。

宿の近くにそこそこの樹高の1本杉がありました。カルルスあたりは標高350㍎で移入樹種であるスギにとっては厳しい環境だと思うのですが、温泉で地熱が高いのでしょうかね、元気で成長しているように見受けました。札幌円山動物園前のスギ木立は結構な大木に成長しております。函館から札幌にかけて国道沿線で見えるだけでもしばしばスギに出会います。内地から持ち込まれた望郷樹です。それらがそこそこ成長しております。温暖化に向けて北海道での植樹にスギを植えることも面白いと思う次第であります。成長が遅くて年輪幅が狭い方が建築材料としては価値が高いのでエゾマツ、トドマツの郷土樹よりも林業的には面白くなると思っています。

